学校花壇部門

総　評

今年はさらに厳しい気象条件、環境の中で、使命感をもって取り組んだ学校が多かったです。限られた時間と予算の中で、テーマを設定し、デザインを公募し、その神髄を花でどう表現するか、様々な工夫を見ることができました。より立体感を出すために、より視覚的なインパクトを出すためにと地域の専門家やグリーンキーパーさんらの協力を仰いだことも伝わってきます。そして日々の水やりや雑草取りにもどれだけの労力を注いでくれたことか、頭が下がります。それぞれの園や学校が、自分たちの花壇の特性をよく見極めてそれを生かした管理をしていたと感じました。厳しい状況の中で、植物のお世話の様々を経験することによって、生育が良くなるよう工夫してきたことが伝わりました。もしもお世話に行き詰まったら、委員会の自分たちだけでなく、先生方や保護者、地域の専門家に相談しましょう。地域の人的資源を最大限に生かすことも花を愛する心に通じると思います。

今年度から、保育園・幼稚園と、学校が同じグループとして評価対象になりました。それぞれのよさと限界を自覚したうえでのびのびと活動に参画してくれることを望みます。そしてなお一層、植物と触れ合い、きれいな花を咲かせ地域に貢献してください。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞した「高岡市立成美小学校」の花壇は、栽培委員会の 5･6 年生が中心になって、全校児童で作り上げられていました。

今年度のテーマを、能登半島地震で被害を受けたことを強く意識し、『がんばろう北陸』にしたこと、各学年の花壇を作り上げるうえで願いを花言葉と花で表現できたこと、どんな小さなことでも毎日欠かさず続ける地道な活動に喜びを見出していること、継続年数、花壇の規模、参加の人員数、地域の協力等、実質的な歴史と伝統を感じさせてくれました。

芯が通った花壇づくりのコンセプトがしっかりしており、学年花壇＝各パーツの出来栄えが素晴らしく、まさに花を通じて学校教育を具現化していることを感じさせてくれました。

（審査委員長　古市幸子）